

幸せとは生きていく喜び

松江

「なごみの里」 柴田理事長 看取りの体験講演

隠岐の知夫里島で昨年11月まで7年半にわたる「なごみの里」の柴田久美子理事長を看取りの体験講演会が24日、松江市乃木福富町の小松電機で開かれ、120人が命の尊さを訴える話に聴き入った。



「幸せとは生きることを喜べる心」と聴衆に語りかける柴田久美子さん

ていたNPO法人「なごみの里」の柴田久美子理事長を招いた講演会が24日、松江市乃木福富町の小松電機で開かれ、120人が命の尊さを訴える話に聴き入った。柴田さんは「抱きしめて、命のリレーをいかに生きるかを学ぶ」の演題で講演し、自らが「幸福者さま」と呼ぶお年寄りの看取りをする中で「幸せとは生きていくことを喜び、感じる心だ

ということを教わった」と穏やかな口調で話した。両親を看取った経験に

も触れ「看取りによって次の世代へと引き継がれる命のバトンを、未来の子どもたちにつなげていきたい」と締めくくると、感激で目頭を押さえる聴衆の姿もあった。東出雲町の公務員、石井洋子さん(58)は「優しい語り口で心が洗われるようだった。90歳の両親

は健在だが、看取りや命の大切さについて考える良い機会になった」と話した。